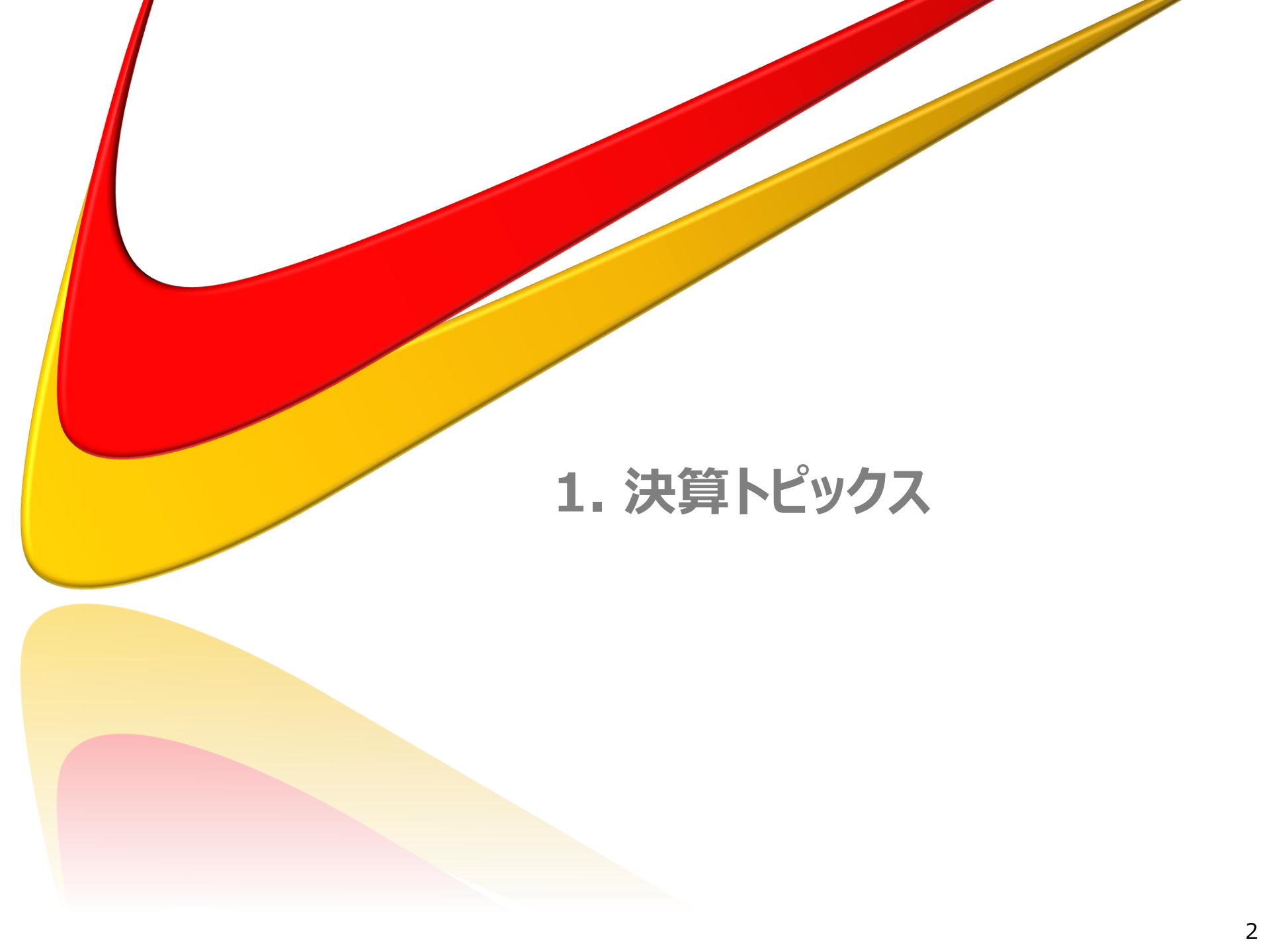




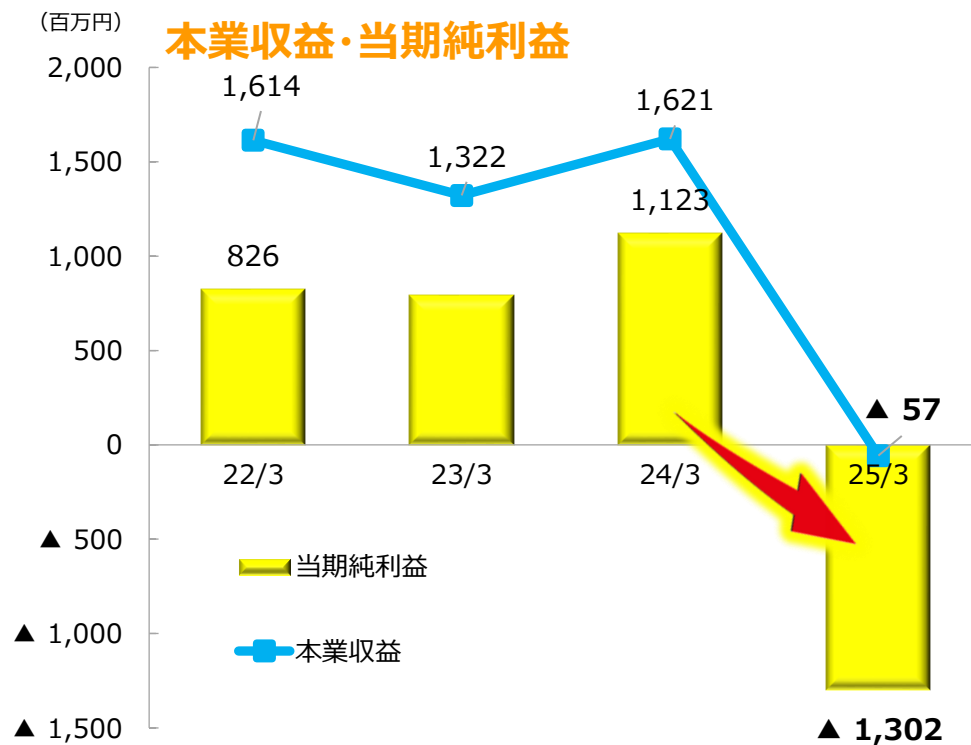
2024年度（2025年3月期） 決算の概要

1. 決算トピックス	・ ・ ・ ・ ・	2
2. 決算の概要	・ ・ ・ ・ ・	7
3. S B I との連携	・ ・ ・ ・ ・	14
4. SHINふくぎん 中期経営計画	・ ・ ・ ・ ・	19
5. 当行のプロフィール	・ ・ ・ ・ ・	38

The background features abstract, flowing shapes in red, yellow, and light pink. A large red shape curves from the top left towards the center. Below it, a yellow shape follows a similar path. In the bottom left corner, there are lighter, more diffuse shapes in yellow and pink.

1. 決算トピックス

1.決算トピックス（本業収益・当期純利益）



2025年3月期はシステム更改に伴う前向きな一過性の費用を19億円程度計上し減益

- ・ 次世代バンキングシステム関連費用等の増加により、営業経費が増加
- ・ 赤字決算もいとわず「次世代バンキングシステム」を開発
- ・ 当期純利益は計画▲15億円も、実績▲13億円と赤字幅は縮小

● 25/3期決算（単体）計画及び実績値（億円）

	25/3月期 計 画	25/3月期 実 績	計画対比
経 常 収 益	105	108	3
経 常 利 益	▲15	▲12	2
当期純利益	▲15	▲13	1

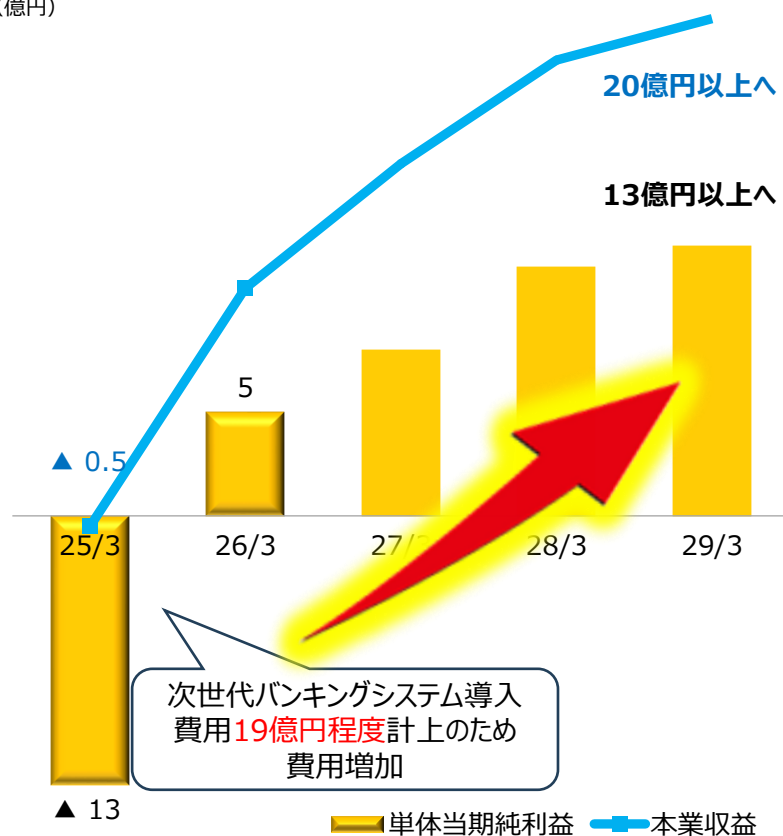
● 一過性費用

	金 額	内 容
システム関連費用等	19億円程度	システム更改に伴い、システム関連費用等を計上 ○ システム関連費用等 ・ 新システムへの移行に伴う費用 ・ 旧システム端末などの処分損など

25/3期は**前向きな一過性の赤字**を計上するも、26/3期より**黒字転換見込み**！

本業収益・単体当期純利益の見通し（イメージ）

（億円）



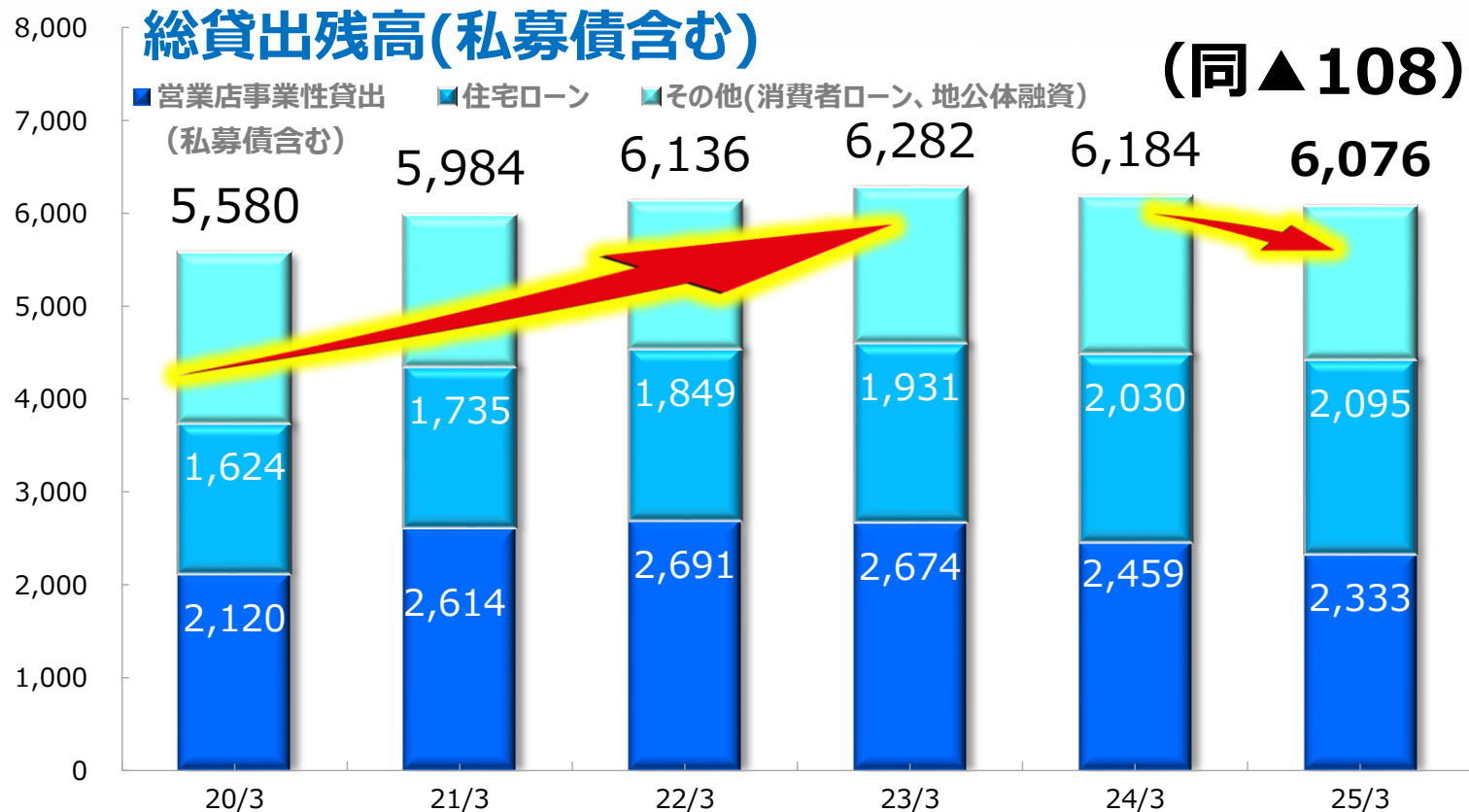
- ・ 2026年3月期は、引き続き「次世代バンキングシステム」の「STEP2」費用などを計上する予定であるが、**5億円程度の黒字確保**を見込む
- ・ 2025年度はエリア営業体制の導入と本部組織のスリム化を同時に進め収益力向上のための体制を整える時期と位置づけ
- ・ 「SHINふくぎん中期経営計画」の最終年度である2029年3月期には**本業収益20億円以上、当期純利益13億円以上のV字回復**を見込む

1.決算トピックス (総貸出残高<私募債含む>)

総貸出残高(私募債含む)は、6,076億円(前年度比▲108億円減少)

- ・ 営業店事業性貸出残高(私募債含む)は、2,333億円と、コロナ関連融資の返済などが進み同▲126億円減少
- ・ 住宅ローンはソリューションプラザ・ローンプラザを中心に推進し、過去最高の2,095億円と同+65億円増加

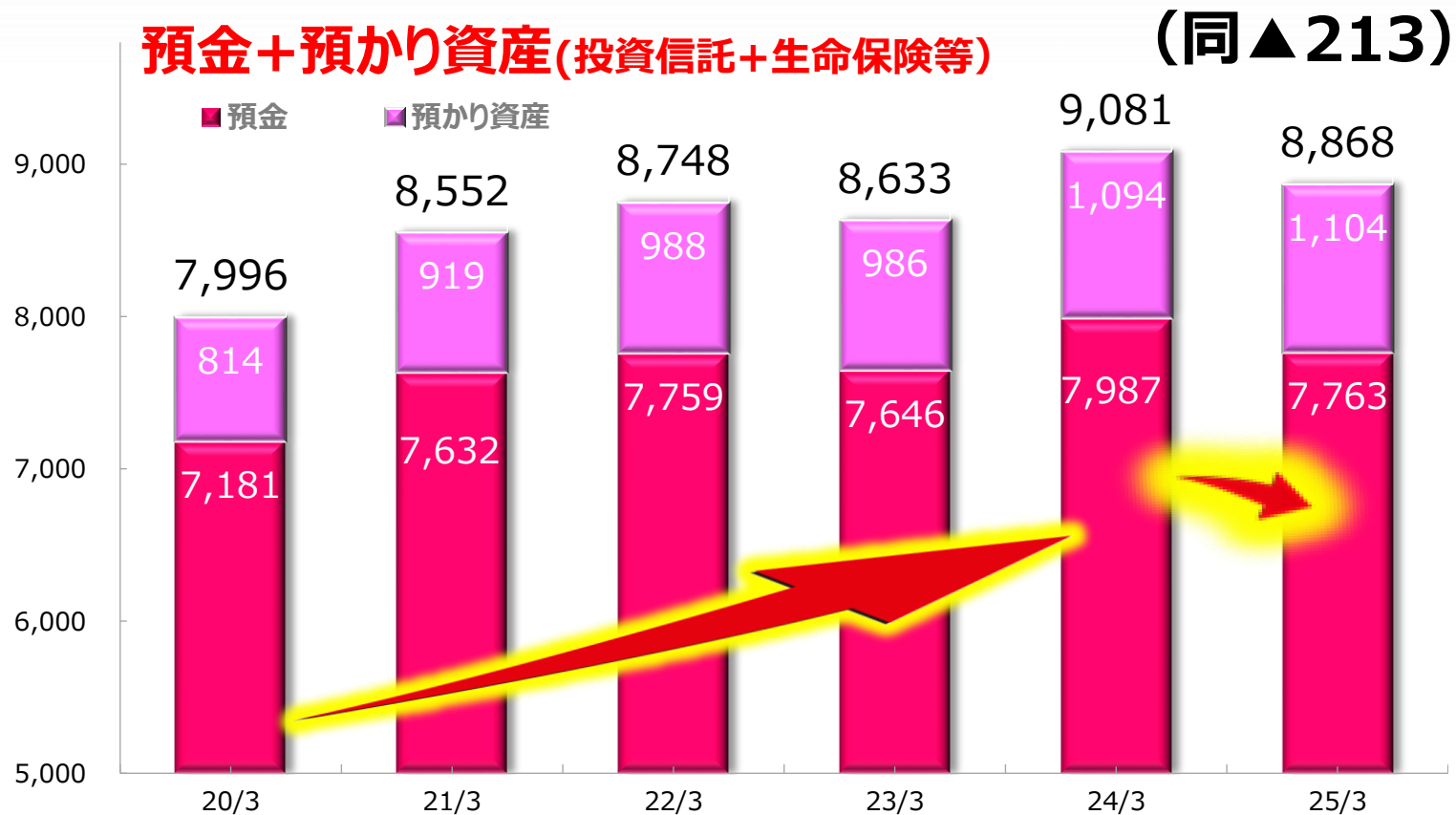
(億円)

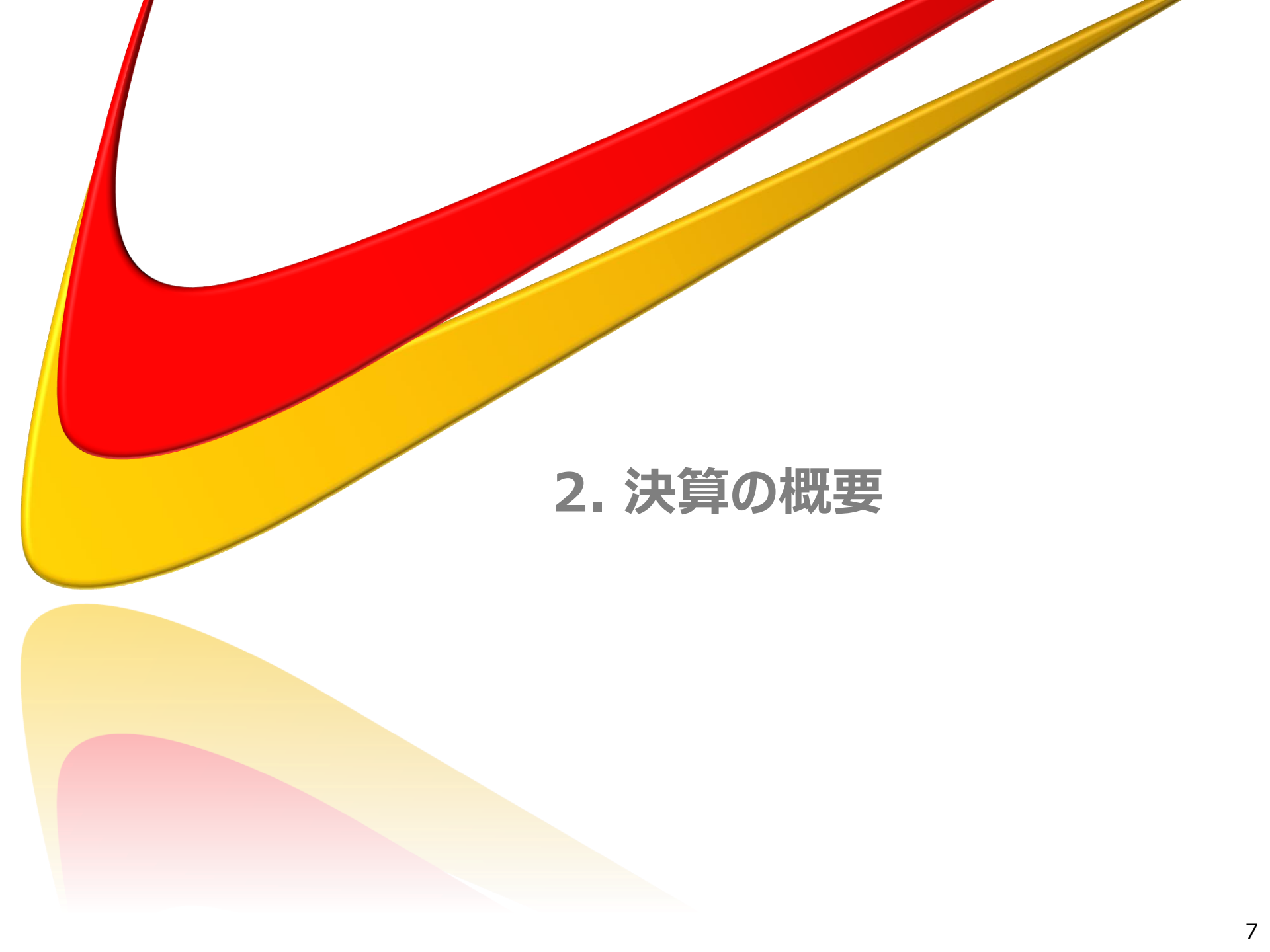


総預かり資産(預金+預かり資産)の残高は、8,868億円(同▲213億円減少)

- ・ 総預金は7,763億円と、法人預金等を中心に減少し、同▲223億円減少
- ・ 預かり資産は投資信託の残高を重視した営業を推進し、1,104億円と同+10億円の増加

(億円)





2. 決算の概要

2.決算の概要 (2025年3月期の実績)

単 体

	25/3	24/3	前年度比
1 経常収益 (①+⑦)	108	109	▲1
2 業務収益①	106	106	▲0
3 貸出金利息	70	68	2
4 有価証券利息配当金⑦	8	9	▲1
5 (A)投信解約益	0	—	0
6 受入手数料等	26	28	▲2
7 国債等債券売却益②④	—	—	—
8 業務費用③	110	88	22
9 預金利息	5	0	4
10 一般貸倒引当金繰入④	▲1	▲3	2
11 国債等債券売却損・償還損・償却⑤⑦	4	0	4
12 営業経費	89	77	11
13 人件費	35	35	▲0
14 物件費	47	36	10
15 業務純益⑥ (①-③ (金銭の信託見合費用除く))	▲4.3	18.4	▲22.8
16 (B)コア業務純益 {⑥- (②-⑤) +④}	▲0.5	16.2	▲16.7
17 本業収益 (投信解約損益除くコア業務純益) (B)-(A)	▲0.5	16.2	▲16.7
18 臨時収益⑦	2	3	▲1
19 株式等売却益⑨	0	0	▲0
20 償却債権取立益	0	0	▲0
21 臨時費用⑧	10	7	3
22 個別引当金繰入額	5	6	▲0
23 株式等売却損・償却⑩	0	0	▲0
24 臨時損益⑨ (⑦-⑧)	▲8	▲4	▲4
25 経常利益 (⑥+⑨)	▲12.6	14.4	▲27.0
26 特別損益	▲3	▲0	▲3
27 法人税等	▲3	3	▲6
28 当期純利益	▲13.0	11.2	▲24.2
29 不良債権処理費用	4.8	3.0	1.8
30 有価証券関係損益 (⑦+①-⑨+⑩-⑪)	3.3	8.8	▲5.5

25年3月期 損益状況

25年3月期は減収減益

システム更改に伴う前向きな一過性の費用を計上し、4年ぶりの赤字決算となりました

- 業務収益は106億円。前年度比▲0億円の減収
 - ・ 貸出金利息は、貸出金平残が3億円増加し、貸出金利回りが同0.046%上昇したことにより、同+2億円
 - ・ 有価証券利息配当金は平残が12億円増加し、利回りが同▲0.075%低下したことより同▲1億円
 - ・ 受入手数料等は、融資関連手数料の減少などにより同▲2億円
- 業務費用は110億円と、同+22億円の増加
 - ・ 預金利息は、平残が+171億円増加し、預金利回りが同0.055%上昇した結果、同+4億円
 - ・ 営業経費のうち物件費は次世代バンキングシステム関連費用の増加により同+10億円
- コア業務純益及び本業収益は▲0.5億円 (同▲16.7億円) とともに大幅な減益
- 経常利益は▲12.6億円 (同▲27.0億円)
当期純利益は▲13.0億円 (同▲24.2億円) とともに減益
- 貸出金利息 (同+2億円) は増加したものの、受入手数料 (同▲2億円)、有価証券利息配当金 (同▲1億円) の減少により、経常収益は同▲1億円の減収
当期純利益は新システム更改に伴う前向きな一過性の費用を計上し、物件費を中心に増加したことにより▲24.2億円の減益となった

2.決算の概要（貸出<私募債含む>）

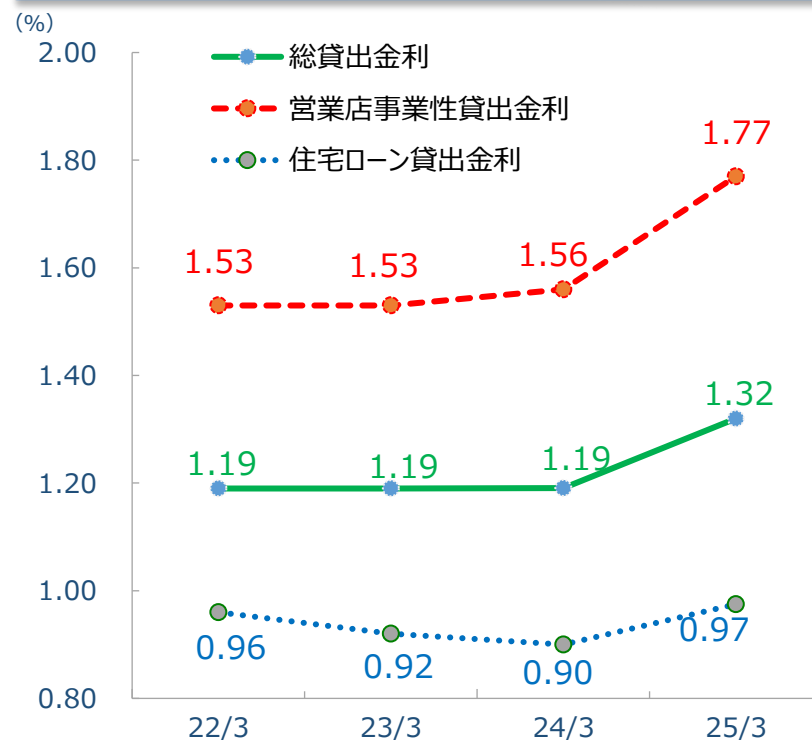
- 貸出残高（私募債含む）は、6,076億円。前年度比▲108億円の減少
 - ・ 事業性貸出（私募債含む）は、新型コロナウイルス関連融資の返済により同▲134億円の減少
 - ・ 消費性貸出については、住宅ローン実行の増加により、同+54億円の増加
- 貸出平均約定金利は、営業店事業性貸出金利、住宅ローン貸出金利ともに上昇し1.32%（同+0.13%）

貸出 残高推移

	22/3	23/3	24/3	25/3	前年度比
事業性	3,097	3,072	2,880	2,746	▲134
営業店	2,281	2,236	2,094	2,018	▲76
私募債	409	438	365	315	▲49
本 部	406	398	420	412	▲8
消費性	2,120	2,207	2,295	2,349	54
住宅ローン	1,849	1,931	2,030	2,095	65
消費者ローン	220	229	220	211	▲9
消費性その他	50	46	44	42	▲2
地公体	800	921	907	919	12
その他	117	81	101	60	▲41
合 計	6,136	6,282	6,184	6,076	▲108
平 残	6,019	6,157	6,186	6,121	▲65

（億円）

貸出平均約定金利



2.決算の概要（預金<NCD含む>・預かり資産）

- 預金と預かり資産を合わせた総預かり資産残高は、前年度比▲213億円減少し、8,868億円
・うち預金残高は、▲223億円減少し、7,763億円。預かり資産残高は、+10億円増加し、1,104億円
- 預かり資産の販売額は、堅調な相場環境により投信販売額が同+42億円増加、保険は同▲52億円の減少
- 預かり資産の販売手数料は、投信販売額が増加したものの保険販売額の減少によりほぼ横ばいの、11.5億円

預金＋預かり資産の残高推移

（億円）

	22/3	23/3	24/3	25/3	前年度比
預 金	7,759	7,646	7,987	7,763	▲223
個人	5,025	4,990	4,961	4,922	▲39
法人	2,199	2,068	2,107	1,882	▲225
地公体	470	483	695	776	80
金融機関	64	104	222	182	▲39
預かり資産	988	986	1,094	1,104	10
投 信	413	403	446	434	▲11
保 険	551	562	628	647	18
公共債	22	20	19	23	3
合 計	8,748	8,633	9,081	8,868	▲213

預かり資産 販売額推移

（億円）

	22/3	23/3	24/3	25/3	前年度比
投 信	209	136	165	208	42
保 険	74	92	157	105	▲52
公共債	1	2	5	6	1
合 計	285	231	328	319	▲8

預かり資産 販売手数料推移

（※SBIマネープラザ手数料を含む）

（億円）

	22/3	23/3	24/3	25/3	前年度比
合 計	11.5	8.9	11.6	11.5	▲0.1

2.決算の概要（有価証券）

- 有価証券の残高は1,613億円（前年度比+53億円の増加）
 - ・ 債券中心の元本毀損リスクの低いインカム運用方針を継続
 - ・ 安定的な収益の確保を目的に国内債の残高が増加
- 有価証券の評価損益は▲81億円（同▲15億円の悪化）
 - ・ 日銀の追加利上げ観測を背景とした国内金利上昇に伴い債券の評価損が拡大も、公共債等が中心で信用リスクは抑えられている
 - ・ 市場動向を注視し、一部債券ベアファンドにより金利上昇をヘッジする等、ポートフォリオのリスク抑制を図る
 - ・ SBIグループと引き続き連携し、有価証券ポートフォリオの状況や課題を共有し健全化に努める
- 債券のデュレーションは8.2年（同+0.2年とほぼ横ばい）

有価証券 残高推移

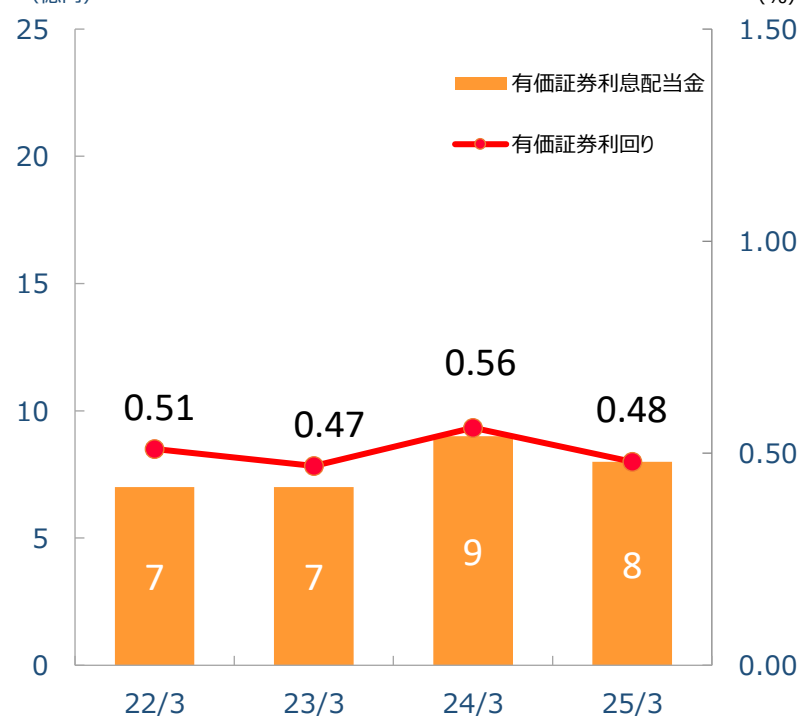
（億円）

	22/3	23/3	24/3	25/3	前年度比
債 券	867	911	860	938	77
国内債	844	891	851	933	81
外国債	22	19	8	4	▲4
投資信託	649	618	638	619	▲18
外債型	649	618	624	614	▲9
株式型	—	—	—	—	—
その他	—	—	14	5	▲8
株 式	20	20	20	18	▲1
そ の 他	23	32	40	36	▲3
合 計	1,560	1,583	1,559	1,613	53
保有有価証券の 評価損益	3	▲28	▲66	▲81	▲15
債券の デュレーション（年）	9.6	9.7	7.9	8.2	0.2

有価証券利息配当金と有価証券利回り

（億円）

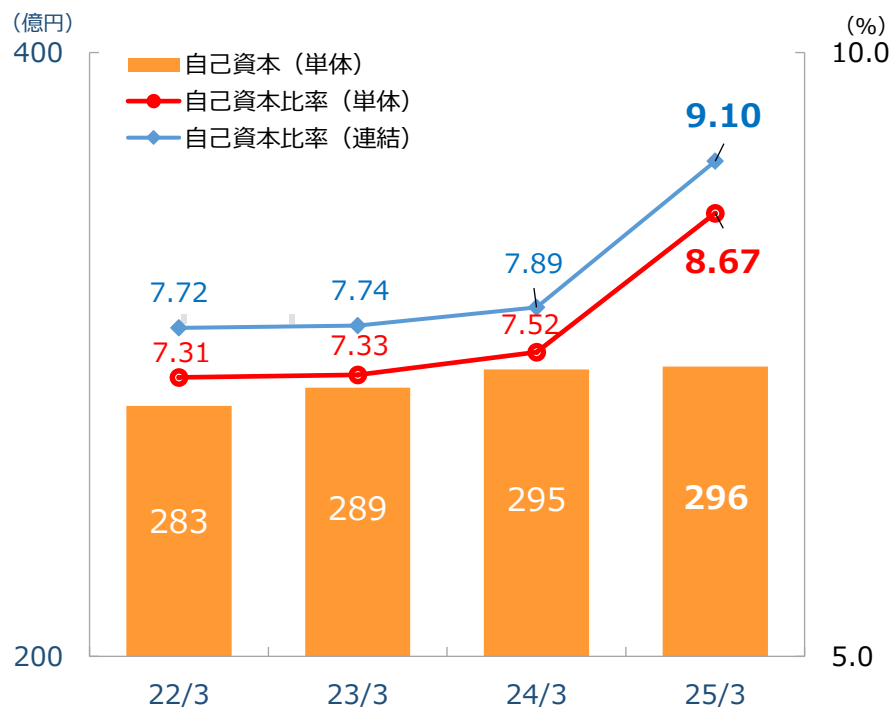
（%）



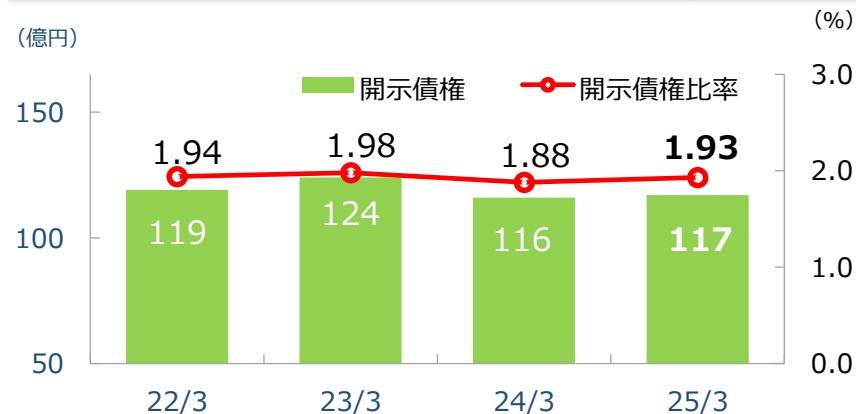
2.決算の概要（健全性）

- 自己資本比率は、バーゼルⅢ最終化基準適用により8.67%（前年度比+1.15%）と大幅に上昇、国内基準（4%以上）を上回る水準を維持。連結自己資本比率は9.10%（前年度比+1.21%）
- 金融再生法開示債権は、117億円（同+1億円）
金融再生法開示債権比率は、1.93%（同+0.05%）と低水準を維持
- 与信関連費用は、4.8億円（同+1.8億円の増加）

自己資本比率



金融再生法開示債権比率



与信関連費用

（※）一般貸倒引当金繰入額＋個別貸倒引当金繰入額
＋貸出金償却等－貸倒引当金戻入額

22/3	23/3	24/3	25/3	前年度比
9.5	3.3	3.0	4.8	1.8

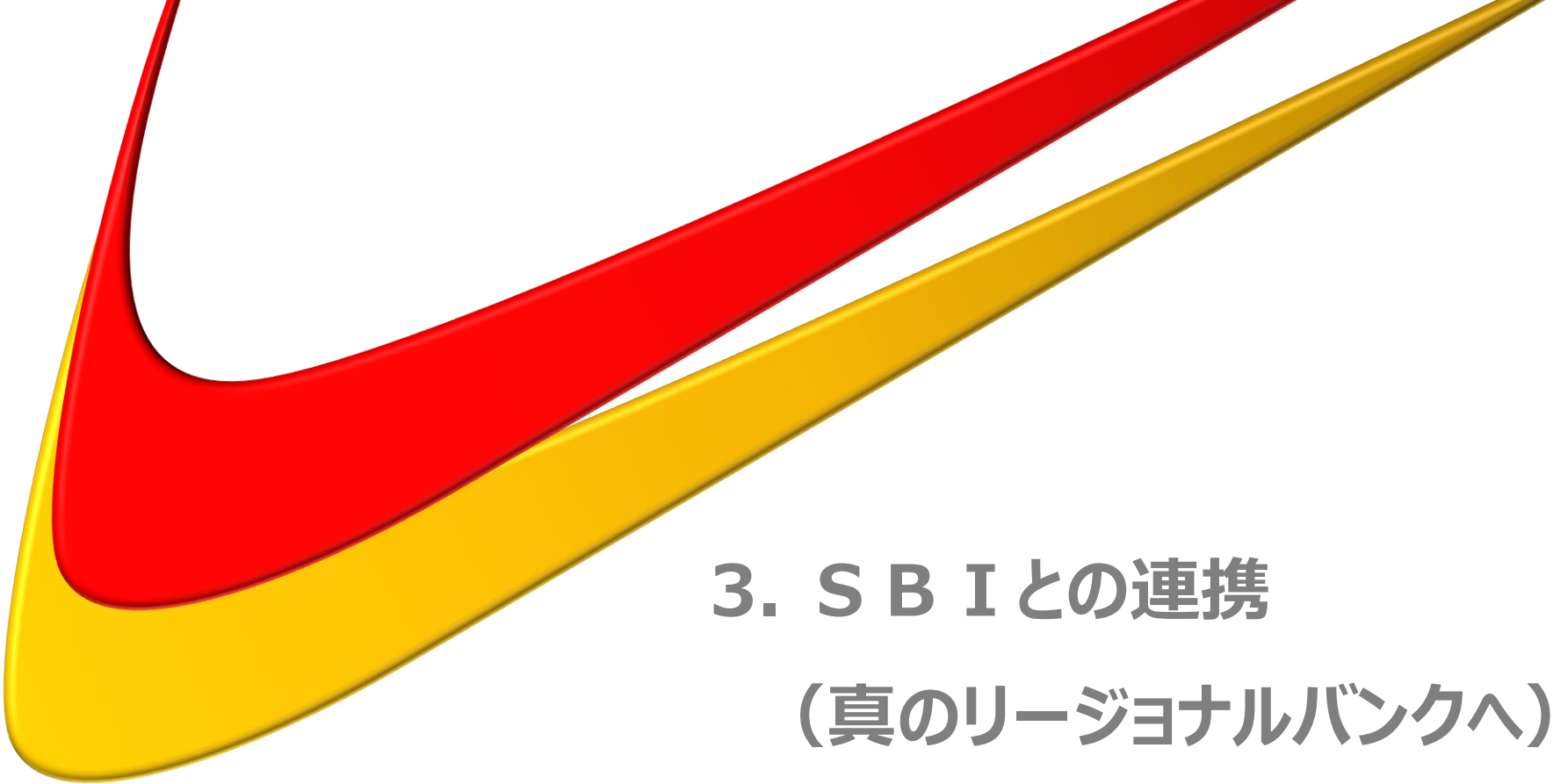
2.決算の予想および今後の見通し

- 2025年度（2026年3月期）は、「エリア営業体制」の導入および本部組織のスリム化など体制整備を進め、5億円程度の当期純利益、黒字転換を見込んでおります。
- 2024年度（2025年3月期）の配当は、予定通り1株あたり 5円 とさせていただきます。
2025年度（2026年3月期）の配当も、1株あたり 5円 を予定しています。

2025年度（2026年3月期）決算予想

(億円)

					23/3月期 実 績	24/3月期 実 績	25/3月期 実 績	26/3月期 予想
単 体	経	常	収	益	105	109	108	124
	経	常	利	益	10	14	▲12	6
	当	期	純	利	益	7	11	▲13
連 結	経	常	収	益	132	133	134	149
	経	常	利	益	11	11	▲11	6
	親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 会 社 期 純 利 益	8	8	▲12	5			



3. S B Iとの連携

(真のリージョナルバンクへ)



- S B I ホールディングス株式会社（以下 S B I ）との資本業務提携以前、当行は以下3つの課題を認識
- 課題解決のため S B I との提携がベストな選択と判断



- 金利低下に伴い、貸出金利息が減少
- 収益源の多様化が必要

営 業 力

- SBIグループはお客さまの課題を解決するための商品・サービスなどを多数保有

- 株式等を中心とした投資信託の運用比率が高まりハイリスクな運用ポートフォリオ

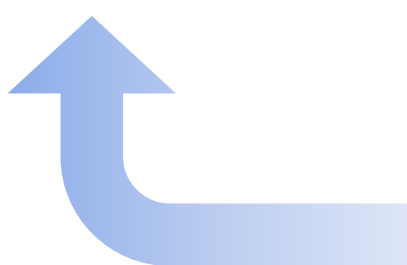
有価証券運用

- ネット金融大手として拡大してきたSBIグループの運用ノウハウを活用

- 独自の勘定系システムも更改期限切迫
- 新システムの選択が急務

勘定系システム

- 「第4のメガバンク構想」を掲げるSBIは先進的な勘定系システム開発を計画



■ 2019年11月にSBIホールディングス株式会社と資本業務提携契約を締結！



SBI森田氏との記者会見の様子



▶ 資本業務提携契約の目的は
金融仲介機能の強化 と **お客さま利便性の向上**

■ 資本業務提携契約締結後、SBIとの連携を積極的に推進！

商品・サービスの充実

DX化推進・業務効率化

人材育成

「福島銀行SBIマネープラザ郡山」開設（20/1）



人材育成のためM&A部門へSBI出向開始（20/1）

SBI損保自動車保険取扱開始（20/5）

人材育成のため有価証券運用部門へSBI出向開始（20/6）

有価証券運用を債券中心のポートフォリオに変更（20年度上期）

住信SBIネット銀行代理業開始（20/7）

SBI新生銀行より「サステナビリティローン」調達（22/12）

「ふくぎんDC（確定拠出型年金）」取扱開始（23/5）

真のリージョナルバンクへ

承認Time・経費Bank II 取扱開始（20/1）

SBI証券「ideco」取扱開始（20/11）

2024年～

「『デジタル』のチカラで
『リアル』の力を最大化」を
基本方針とし、DX化を推進し
ビジネスモデルの転換を図る

承認Time

2022年

2021年

2019年11月

資本・業務提携契約締結

SBI生命共同化団信付保ローン取扱開始（21/1）

「勤怠Reco」取扱開始（21/5）

「ふくぎんBMS」（リンクーズ社）取扱開始（21/8）

人材育成のためDX部門へSBI出向開始（22/4）

「請求QUICK」取扱開始（22/10）

「次世代バンキングシステム」稼働（24/7）

「ふくぎんアプリ」刷新（24/7）

アプリ専用定期預金「UP」発売（24/10）

「スマホATM」サービス開始（24/11）

アプリ専用定期預金「ONE」取扱開始（25/2）

「福島銀行SBIマネープラザ会津」開設（25/4）

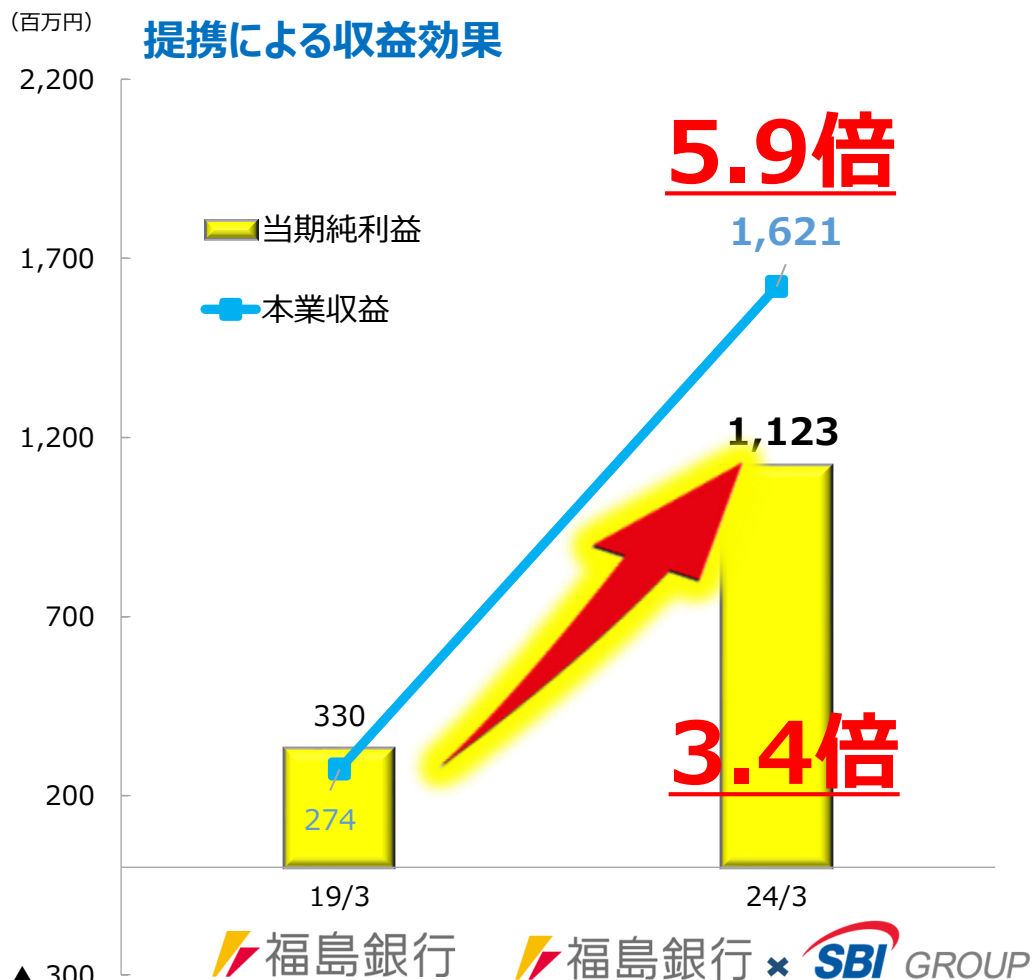
3. SBIとの連携（真のリージョナルバンクへ）

■ SBIとの連携により収益力は着実に向上！

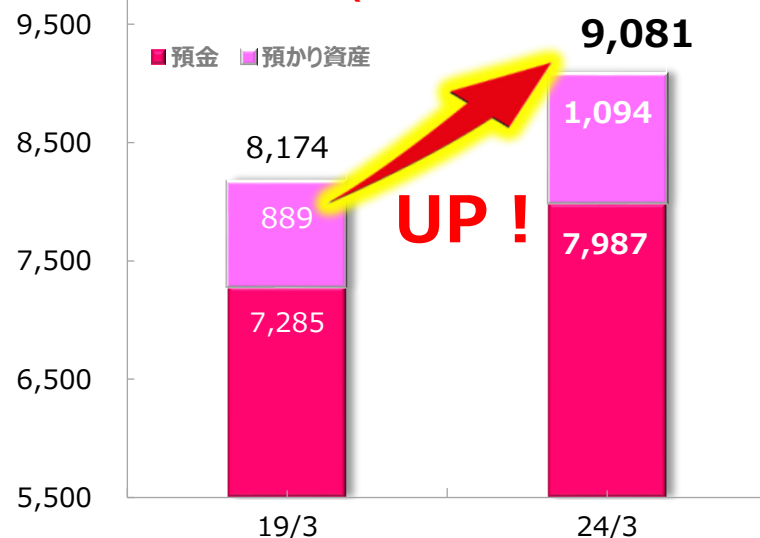
※ 25/3期は一過性特殊要因の赤字であるため24/3期比較

- ▶ 本業収益、当期純利益、総預かり資産、総貸出残高いずれも増加、収益基盤の強化が図られた

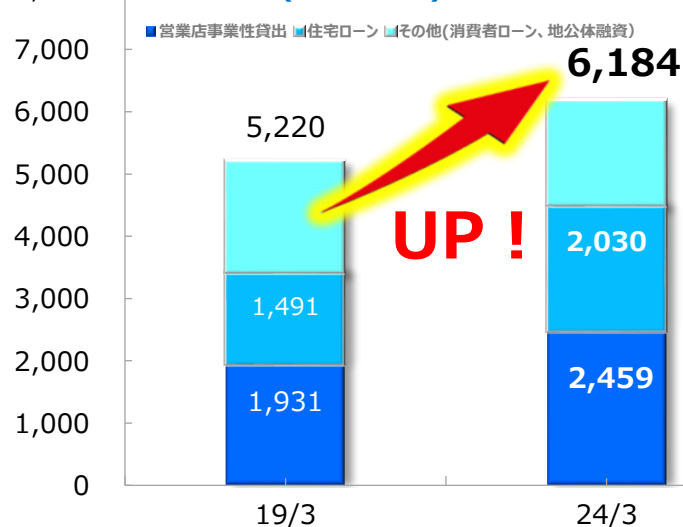
提携による収益効果



預金+預かり資産(投資信託+生命保険等)



総貸出残高(私募債含む)



「デジタル」のチカラで「リアル」の力を最大化



4. SHINふくぎん 中期経営計画

SHINふくぎん 中期経営計画

基本方針

「デジタル」のチカラで「リアル」の力を最大化

基本戦略

DX
(デジタル)

次世代バンキングシステムを最大限に活用し、徹底的に業務のDX化（デジタル）を図ります
リテールビジネスはスマホで完結。
お客さま利便性の向上を目指します

対面営業
(リアル)

事務量の半減により、本部から営業店へ、店頭から渉外へ人員を再配置します
対面（リアル）での「事業者支援」と「資産形成支援」に人的資源を集中します

人材開発

エリアでの営業体制を構築し、人材育成に注力します。
対面営業の質的・量的向上を目指し、コンサルティング力に優れた人材の育成を図ります

※ リテールビジネス
預金・ローン・資産運用など

SBI、フューチャー・アーク外、福島銀行の3社にて 次世代バンキングシステムを開発！2024年7月稼働開始！

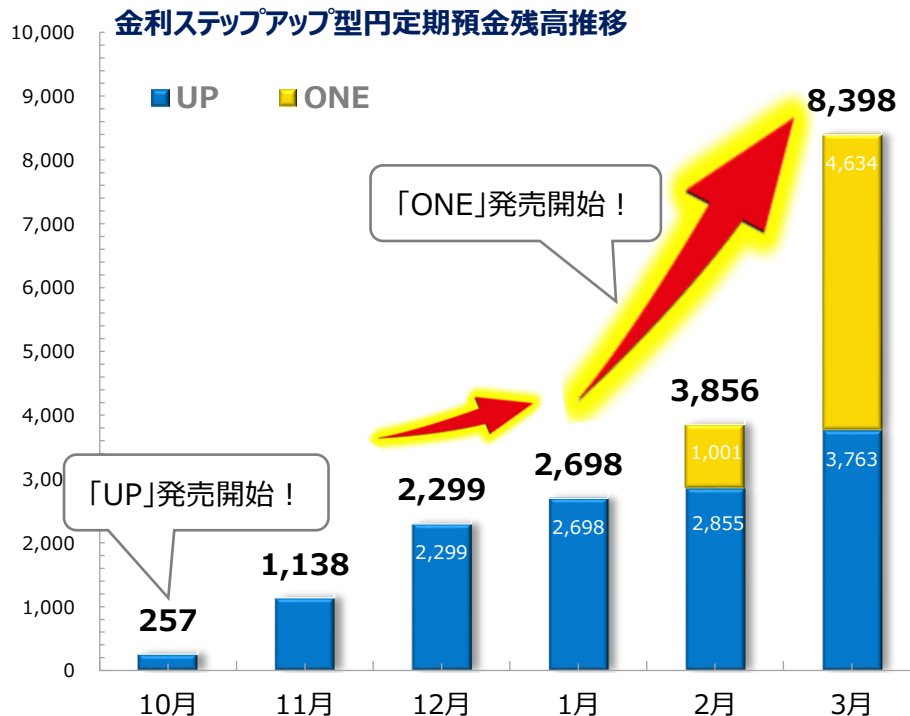


次世代バンキングシステムの特徴

- ・ システムを**ゼロベース**で構築。データ構造が**シンプル**だから**お手続きもシンプル**に！
- ・ **フルオープンAPI**により外部接続が簡単・早く！**最新の金融商品・サービス**に対応可！
- ・ 銀行業務を紙から**デジタルベース**へ変革、コストの削減など**業務効率化**を図る

新システム更改により新商品開発期間が大幅に短縮！

- 新システム更改後、商品開発にBRMS（ビジネス・ルール・マネジメント・システム）を活用！
- 商品開発期間は旧システム対比で **6ヶ月程度 ⇒ 1ヶ月程度** に！



金利ステップアップ型円定期預金

- ・ 新システム更改後、BRMSを活用し開発した商品
- ・ 開発期間を短縮し、**お客さまニーズや市況の変動に即座に対応**することが可能に！



ステップアップ型円定期預金「UP」

- ・ 2024年10月発売
- ・ アプリ専用定期預金
- ・ 6ヶ月ごとに金利が上昇していく



ステップアップ型円定期預金「ONE」

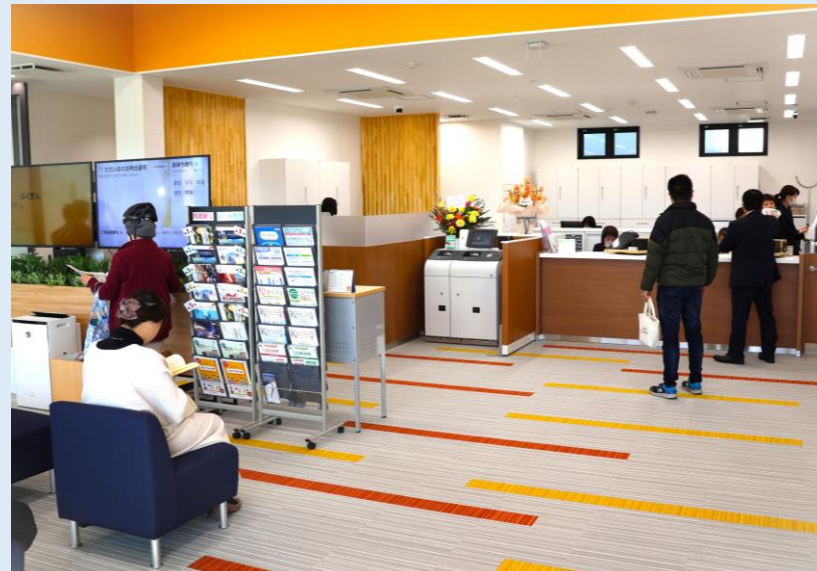
- ・ 2025年2月発売
- ・ アプリ用と店頭用2種類の商品を用意
- ・ 1年ごとに金利が上昇していく



次世代型店舗第1弾 「福島西支店」 オープン！



スタイリッシュな外観！



新システムに合わせて店舗の構造を再定義！
お客さまのスペースを拡張、
紙や専用端末が無くなり行員スペースはシンプルに！

営業店は「**金融の事務手続きを行う場所**」から
「**お客さまに寄り添うコンサルティングスペース**」へ！

2024年7月16日「ふくぎんアプリ」リニューアル！ UI・UXが大幅に向上し、お客さま利便性が向上！



特徴①

生体認証(顔・指紋)を
採用し、簡単ログイン！
セキュリティもUP！

特徴②

トップ画面で口座残高が
すぐにわかる！

特徴③

振込手続きが簡単！
福島銀行内の取引は
無料！

※ UI (ユーザーインターフェース) : 製品やサービスを利用する際おける接点。アプリでは視認性や操作性を指します

UX (ユーザーエクスペリエンス) : 製品やサービスを利用して得られる体験

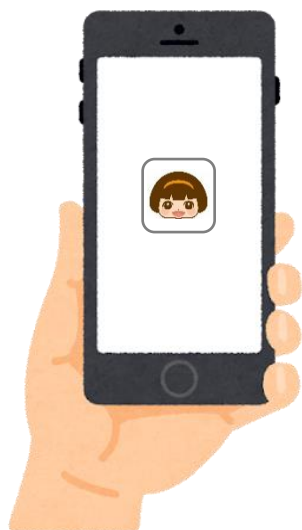
ふくぎんアプリ（特徴①生体認証）

生体認証でらくらくログイン！

- ログイン・取引時には生体認証（顔・指紋）での承認が必要

面倒なID・パスワードの入力は**不要**

セキュリティは大幅に**向上**



スマホ上の「ふくぎんアプリ」アイコンをタップ

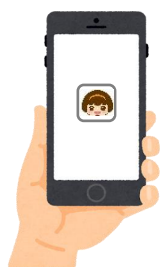


生体認証ですぐにログイン！

ふくぎんアプリ（特徴②トップ画面）

トップ画面で残高確認！

簡単ログイン！



ここをフリックすれば
別口座の残高も確認できる

トップ画面ですべての
口座を管理できます

シンプルで分かりやすいUI！

「振込・振替」や
「入出金明細」などの
よく使う機能は
アイコンで一目瞭然
シームレスに取引可能

※ フリック：スマホの画面を指で触れて任意の方向に滑らせる動作

ふくぎんアプリ（特徴③簡単振込）

振込履歴から 5ステップ で簡単振込手続き！

ATMによる振込も振込履歴から選択することで簡単に！

● 振込操作方法



①振込アイコンを選択



②「振込する」を選択



③「振込履歴」を選択



④「振込金額」を入力



⑤「生体認証」で完了

次世代バンキングシステムの稼働によりDXはさらに加速！

STEP1

(2024年7月16日)

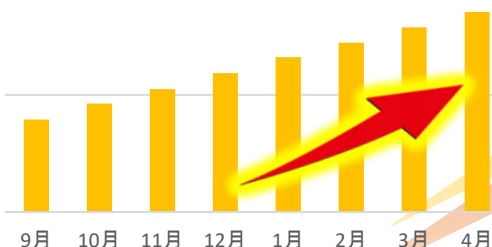
○ 次世代バンキングシステム稼働！



○ ふくぎんアプリ刷新！



アプリユーザー数推移



○ 法人IB刷新！

ビッグデータ活用に向けて
法人商流可視化アプリ
(β版)の配信を開始！



STEP3

- AI活用による業務効率化！
- ビッグデータ活用による営業の高度化！
- 法人IBの機能拡充！

好評なバンキングアプリのユーザー数は着実に増加！
4月末アプリユーザー数
17,062！

STEP2

(2025年夏予定)

○ FutureBANK機能が大幅に拡充！

- ・ 各種業務システムをFutureBANKへ集約！
- ・ 投資信託・生命保険申込をペーパーレスに！
- ・ 営業活動や案件管理をリアルタイムに見える化！



○ ふくぎんアプリがさらに便利に！

- ・ ローン申込から契約までをふくぎんアプリで完結！
- ・ ローンの残高照会や繰上返済の申込みが可能に！

SHINふくぎん 中期経営計画

基本方針

「デジタル」のチカラで「リアル」の力を最大化

基本戦略

DX (デジタル)

次世代バンキングシステムを最大限に活用し、徹底的に業務のDX化（デジタル）を図ります
リテールビジネスはスマホで完結。
お客さま利便性の向上を目指します

対面営業 (リアル)

事務量の半減により、本部から営業店へ、店頭から渉外へ人員を再配置します
対面（リアル）での「事業者支援」と「資産形成支援」に人的資源を集中します

人材開発

エリアでの営業体制を構築し、人材育成に注力します。
対面営業の質的・量的向上を目指し、コンサルティング力に優れた人材の育成を図ります

※ リテールビジネス
預金・ローン・資産運用など

**「リアル」の力を最大化するため、
2025年4月より「エリア営業体制」導入！**

「エリア営業体制」導入の目的

お客さまとの接点増加 + 充実したサービスの提供



法人のお客さまの課題解決や個人のお客さまの資産形成支援を通じて

地域経済の発展に貢献する

「エリア営業体制」の特徴（2025年4月導入）

店舗ごとの役割を明確化。従来の40店舗体制から、地域ごと12エリア体制へ

① 12エリアの「エリア統括店」に法人営業担当者を集約！

- ・担当エリアの重複解消等によるエリア内の運営効率化を図りお客さまとの接点を増加
- ・ナレッジ(知識・経験・情報)を共有することによりお客さまへ最適な提案を実施

② 本部所属であった「CA」を各エリア統括店に増員配置！

- ・「エリア統括店」に「CA」が駐在し、地域のお客さまの資産形成を専門的・継続的にサポート
- ・「CA」がエリアの「リテールサービス課社員」を育成することで、より高度な付加価値の高いサービスの提供を目指す

※ CA（コンサルティングアドバイザー）：資産運用に係る業務に専門的に従事する社員

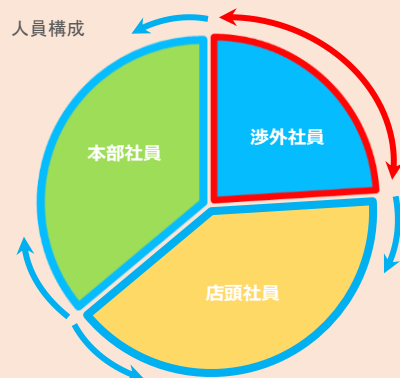
【12エリア概要】



「デジタル」化による業務効率化と「**エリア営業体制**」による体制整備により渉外社員は着実に増加！

人員構成推移

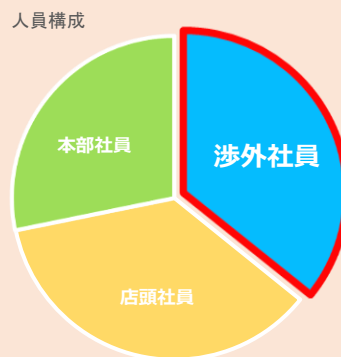
24/3期



中期経営計画前の人員構成

渉外社員比率は**1/4以下**

25/3期

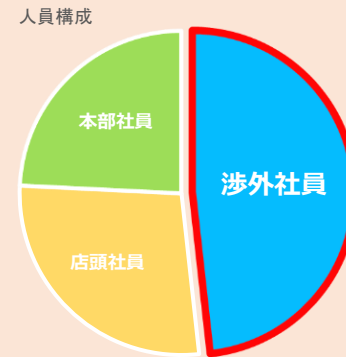


現在（25/3期）の人員構成

渉外社員比率は**1/3程度**へ

29/3期

〈目指す姿〉



最終年度（29/3期）の人員構成

渉外社員比率は**1/2程度**へ

渉外社員の増加によりコンサルティング営業を強化！
地域の課題解決力UP！

主要施策：事業者支援

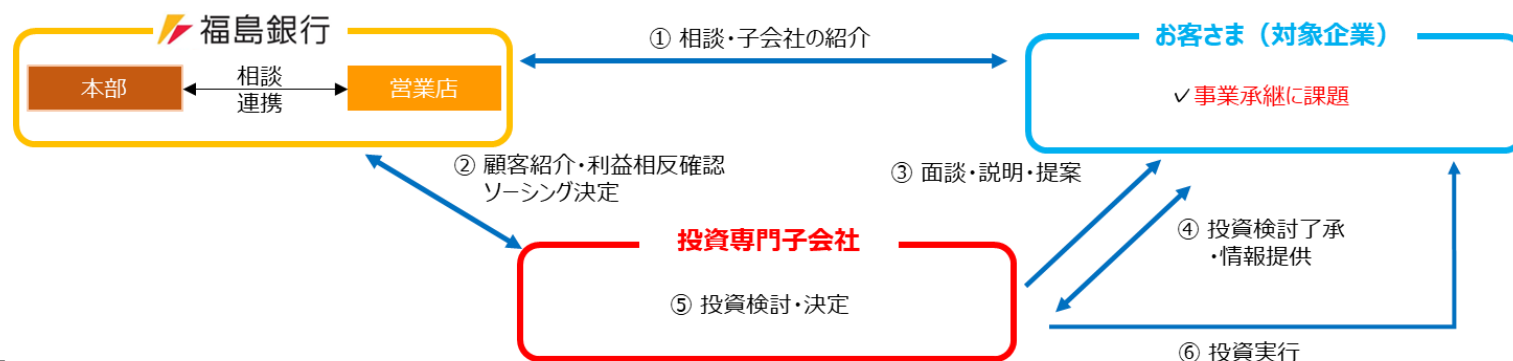
地域の事業承継の課題を解決！

投資専門子会社「ふくぎん地域活性化投資」の設立！

- 事業承継などの地元企業の課題に対し、「エクイティ投資」を通じ、地域の経済、雇用を守るなど地域活性化に貢献

称 号	株式会社ふくぎん地域活性化投資
所 在 地	福島県福島市万世町2-5（福島銀行 本店ビル内）
設立予定時期	2025年 夏頃
主な事業内容	1. 有価証券等の取得、保有および売却 2. 投資対象会社等に対するコンサルティングおよびビジネスマッチング業務 など

■ スキーム図



主要施策：資産形成支援

「資産形成支援」を強化、共同店舗2店舗目

「福島銀行SBIマネープラザ会津」オープン！

 福島銀行

×

 SBI Moneyplaza

- ▶ 対面による質の高いコンサルティングを通じて、多様化・高度化する資産運用ニーズにワンストップで対応
- ▶ 高度なサービスを提供することで、地域の資産形成をサポートします



○ 2025年4月14日オープニングセレモニーの様子

名 称	福島銀行SBIマネープラザ会津
所 在 地	福島県会津若松市大町1-6-22 (福島銀行 会津支店内)
営 業 時 間	平日 9:00 ~ 15:00 (休業日：土・日・祝日および12月31日～1月3日)
取 扱 業 務	金融商品仲介業務

SHINふくぎん 中期経営計画

基本方針

「デジタル」のチカラで「リアル」の力を最大化

基本戦略

DX (デジタル)

次世代バンキングシステムを最大限に活用し、徹底的に業務のDX化（デジタル）を図ります
リテールビジネスはスマホで完結。
お客さま利便性の向上を目指します

対面営業 (リアル)

事務量の半減により、本部から営業店へ、店頭から渉外へ人員を再配置します
対面（リアル）での「事業者支援」と「資産形成支援」に人的資源を集中します

人材開発

エリアでの営業体制を構築し、人材育成に注力します。
対面営業の質的・量的向上を目指し、コンサルティング力に優れた人材の育成を図ります

※ リテールビジネス
預金・ローン・資産運用など

2024年10月1日コンサルティング営業の強化を目指し 「人材開発担当」を配置！

目 的 : 福島銀行社員（人材）の能力を最大化すること

役 割 : 福島銀行社員（人材）の能力を最大化するために人材開発、人材育成についてPDCAを回しながら企画・運営すること

目指す人物像

お客さまの課題に真摯に向き合い、**信頼**される人材へ！





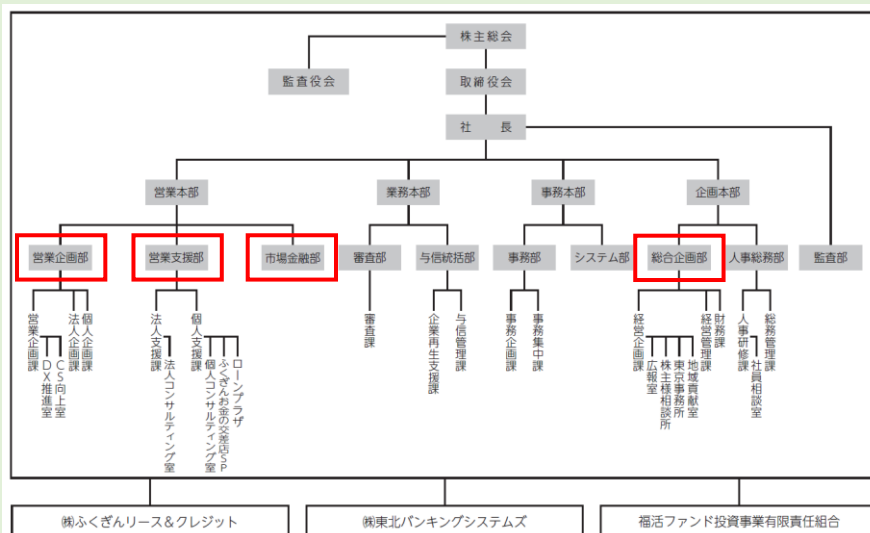
グループへの出向を通じて専門人材を育成！

銀行業務の高度化に向けて専門人材の育成を図る！

- SBIグループは「顧客中心主義」を掲げ、「企業生態系」構築し、中核事業であるネット証券以外にも様々な事業を行っている
- 「事業承継、M&A」、「DX」、「有価証券運用」の3分野に当行社員を出向させ、専門人材の育成に取り組む

● 出向者は本部主要部署に所属し、専門性を発揮！

組織図（出向者配属部署）



● 出向経験を生かし子会社を設立！

- ・「株式会社ふくぎん地域活性化投資」は「事業承継・M & A」分野のSBI出向経験者が中心に設立予定

4.SHINふくぎん 中期経営計画 【対面営業】



主要施策：事業者支援 地域の事業承継の課題を解決！

投資専門子会社「ふくぎん地域活性化投資」の設立！

- 事業承継などの地元企業の課題に対し、「エクイティ投資」を通じ、地域の経済、雇用を守るなど地域活性化に貢献

社 名	株式会社ふくぎん地域活性化投資
所 在 地	福島県福島市万世町2-5（福島銀行 本店ビル内）
設立予定時期	2025年 夏頃
主な事業内容	1. 有価証券および金銭債権等の取得、保有および売却 2. 投資対象会社等に対するコンサルティングおよびビジネスマッチング業務 など

■ スキーム図



【無断転載禁止】

33

本社所在地	福島県福島市万世町2番5号
電話番号	024-525-2525（代表）
設立年月日	1922（大正11）年11月27日
資本金	196億円
株主数	15,947名
従業員数	577名（うち正社員436名）
店舗数	57店舗（5出張所、2リム・ション・ラザ、 10・ン・ラザ、1ネット支店含む）
預金残高	7,763億円
預かり資産	1,104億円
貸出金残高	6,076億円（私募債含む）
自己資本比率	8.67%（単体）、9.10%（連結）
金融再生法 開示債権比率	1.93%
連結子会社	(株)ふくぎんリース&クレジット（2021年4月1日合併） (株)東北バンキングシステムズ

【2025年3月末現在】

（お問い合わせ先） 株式会社福島銀行 総合企画部 寺島達也、金成洋輔 TEL：024(525)2525 FAX：024(536)5338

本資料には、将来の業績および計画等に関する記述が含まれております。こうした記述は、将来の業績に影響を与える不確実な要因によって将来実現する保証はなく、実際の結果と大きく異なる可能性があります。また、事業戦略や業績など、将来の見通しに関する事項には、一定のリスクや不確実性等が含まれております。